花のように

18

花の下にて

結局、西行妖は
満開にはなりませんでした

確かに桜の木の下には
誰かがいたのですが、

それが何者だったのか
私達が知る事出来なかったのです

人であり人でない

あの禍々しい影は
何だったのでしょうか
桜が見せた春の幻？

トン

紫様

幽々子は
いるかしら？

あら紫

いらっしゃいませ

いらっしゃい

今年は来るのが
遅かったわねぇ

あなたが春を
集めたり
からよ

いえ
同じではないわ
幽々子

私もあなたも
あの桜も
毎年少しずつ違う

今年は珍しく
色々な人が
来たけれど

何か物足りないと
思ったら
紫だったのね

あなたとはもう
何百回も同じ桜を
見てきたもの

そうなのかしら？

毎年死ぬ事で
翌年も同じ様に
咲く

刹那にして永遠

だからこそ
美しい

詩的ね

空腹は
満たして
くれない
けれどね～

あの～

お二人は
いつ頃からの
お知り合い
なんですか？

それはもう妖夢の
生まれるずっと前
いつなのか
忘れたけどね

昔の事覚えてないって
幽々子さま……
それでいいんですか？

いいのよ
私は幽々子の
そういう所が好きよ

それに

こう永く
生きていると
色々ありすぎるのよ

そうよ
そうよ

それでも私達は
友達だし、最近は
面白い事が多すぎて
目が回っちゃうわ

そういうもの
なのでしょうか？

大切な人に忘れられるなんて
私なら悲しいです、

そう思うのは私がまだ
子供だからでしょうか？

私が冬眠している間に
大変な事が
起こっていたのね

ええ

あの巫女の
せいですよ

結界を壊す事は
出来ても
貼り直す事が
出来ないなんて

ちょっと
いいかしら？

あ
はい

ちょっと春を
借りただけなのに
冥界は酷い有様です

二代目の
庭師でありながら

……

どうして幽々子を
止めなかったの？

あなた本当は
幽々子の事……

私は幽々子さまの
従者です

幽々子さまが春を
お望みならば私は
春を集めるまでです

……

まさかこの子
妖忌から
何も聞いていない？

それがあの人の
意思ならば
私が口を出す
事ではない

そう
それならいいわ

あなたには
あなたの立場が
あったわね

？

バチ

バチ

これで終わりよ

えっまだ完全に直ってないですよね？

妖夢の仕事は増えるけどね

しばらくはこれでかまわないでしょ？幽々子？

別にいいわよ～まだまだお客様も来る事だし

幽々子さまぁ！

そんなわけで

待ちなさいッ！
お前たちったら
何度言っても！

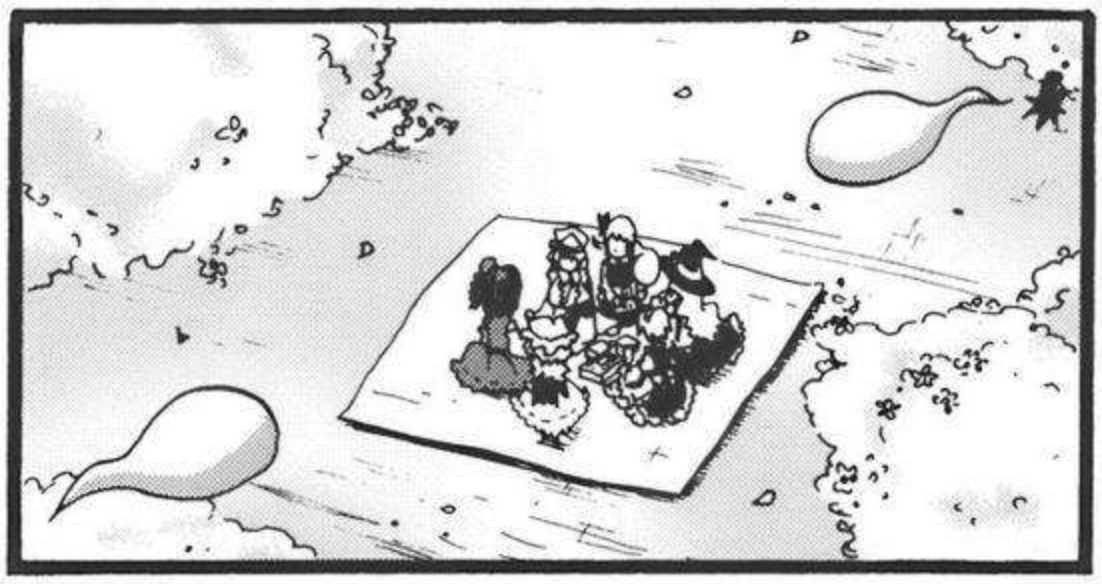
花見の季節も
終わろうというのに
私は大忙しです

そっちに行っちゃ
駄目だってば！

あら半死体
遊びにきたわよ

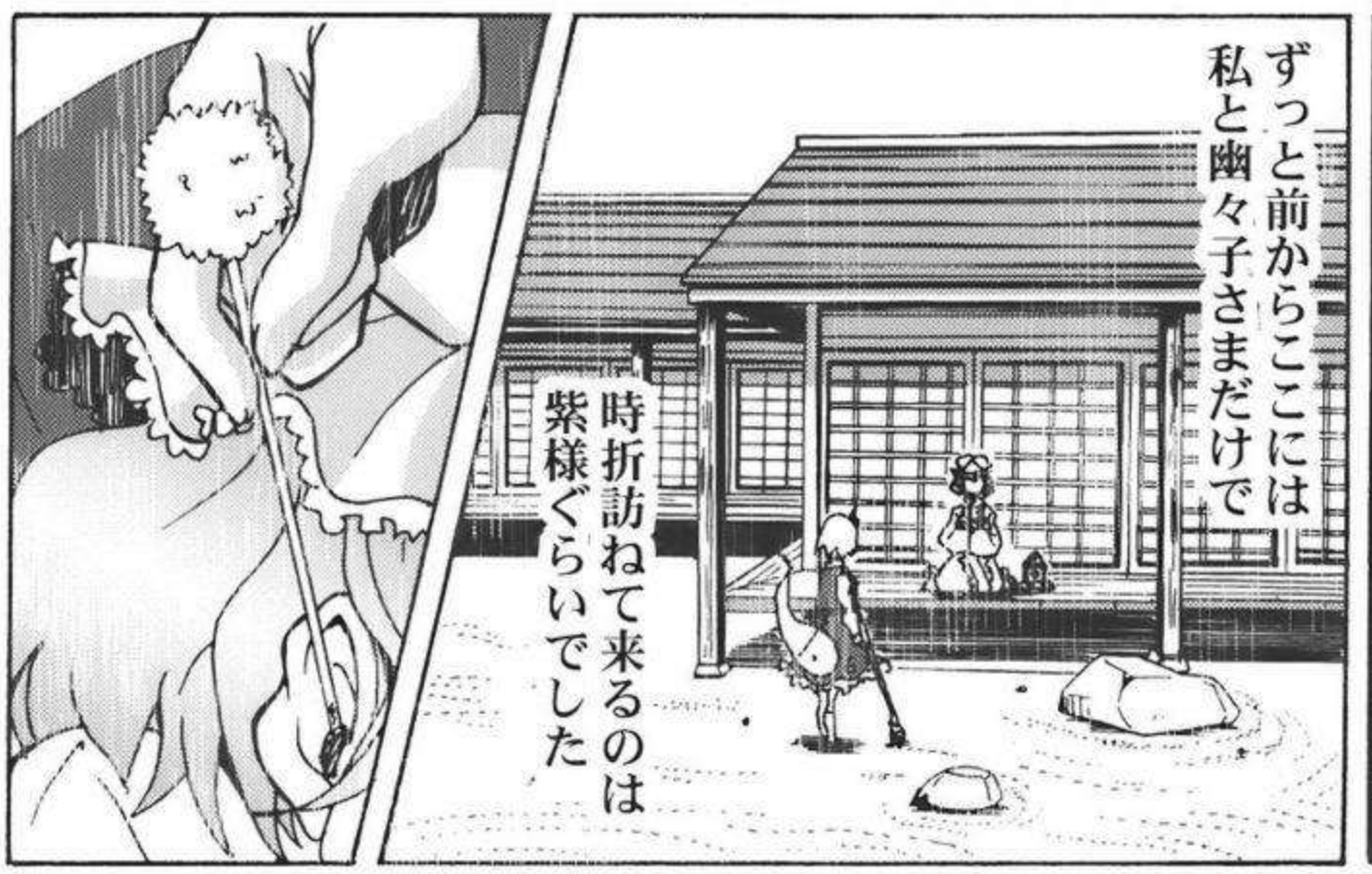
！

幽々子さま
楽しそうです



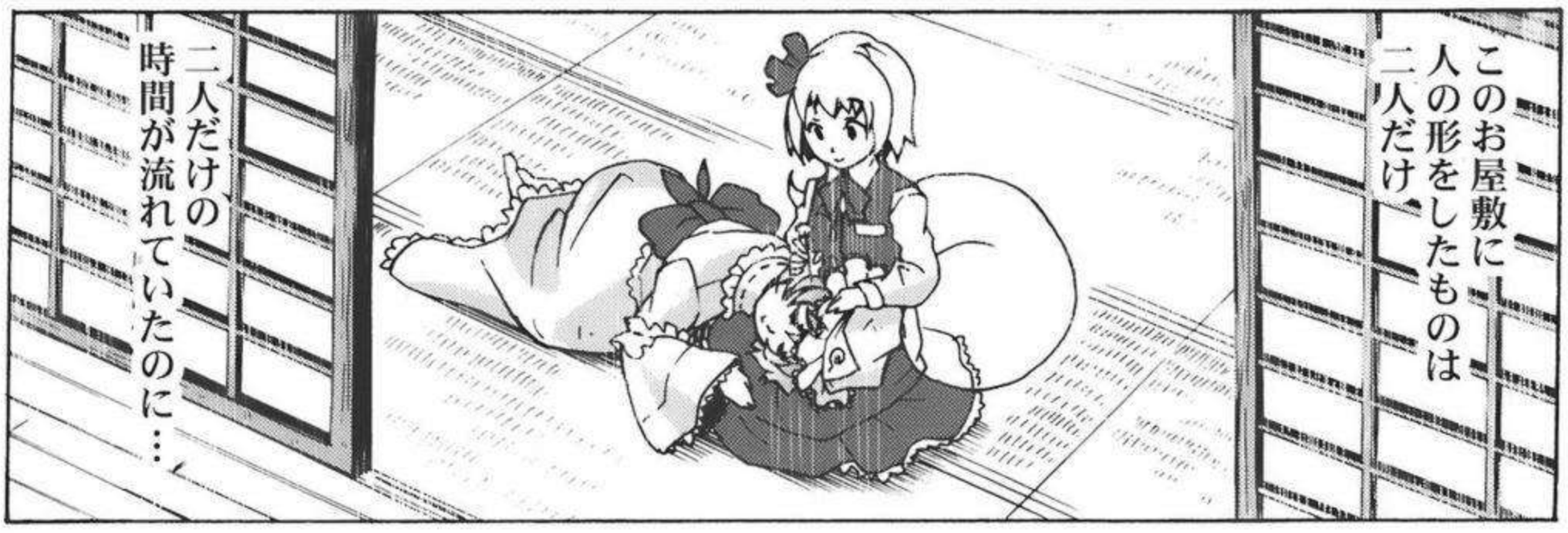
ずっと前からここには
私と幽々子さまだけで

時折訪ねて来るのは
紫様ぐらいでした



このお屋敷に
人の形をしたものは
二人だけ

二人だけの
時間が流れていたのに…



今は…

何辛気臭い
顔してるんだよ
お前も飲め飲め！

いえ私は…

いい飲みっぷりね
私ももう一杯
いこうかしら

もう駄目よ
何杯目だと
思ってるの？

いくら飲んでも
一杯にならない
不思議ねぇ～

不思議なのは
あなたの胃袋
よく
潰れないわね

此所の桜も
もう終わるから
また妖夢を連れて
神社にお花見にでも
行こうかしら？

お酒お酒

そっちの子はともかく
あんたの食べる分は
持ってきなさいよ
うちではその胃袋を
まかないきれないわ

あら
潰れちゃったのね
妖夢

お酒も
無くなった事だし
そろそろお開きに
しましょうか

そーいえば
藍は飲酒運転に
なるのか？

うーん
私とした事が
酔い潰れるなんて

ん…

こんな所で
寝てると
風邪引きますよ
幽々子さま

霊体と言っても
重さはあるの
ですから…

よいしょっと

よーむ？

あたたた

酔いが抜けてないのね

ふへ～

起きたの？

幽々子さま

すぴ

私だけの幽々子さま
だったのに――

私は
幽々子さまだけの
ものだったのに…

「大切なものを守れる程、己に負けぬ程に強くなれ」

「幽々子さまを
いつも側でお守りするんだぞ」

「それがお前の役目だ」

「はい
お師匠様！」

私には…

私の半分を…
受け入れてください！

私には幽々子さまし
いないのに！

？

ん…
よーむ？

私、幽々子さまと
ひとつになりたいです

ん

半分でいいの？
いいのよ
全部入れても

ドロ

私は
空っぽだから

ドリル

ドリル

あなたの半分くらい
全部飲み干してしまうわ
きっと

ラ

ゾクゾク

あっ

めちゃ

めち

まあ
どうしちゃったの
かしら

余裕がないのね
妖夢

そんな事ないです
まだまだ
いけますッ

あらあら
生気に満ちてるわね
妖夢は

ん…

はぁ
はぁ…

あっ
幽々子さまの中
あったかい…です

はあ、

はあ、

幽々子さまの体
とっても
やわらかいですぅッ

は、はあ…

あ…

あ…

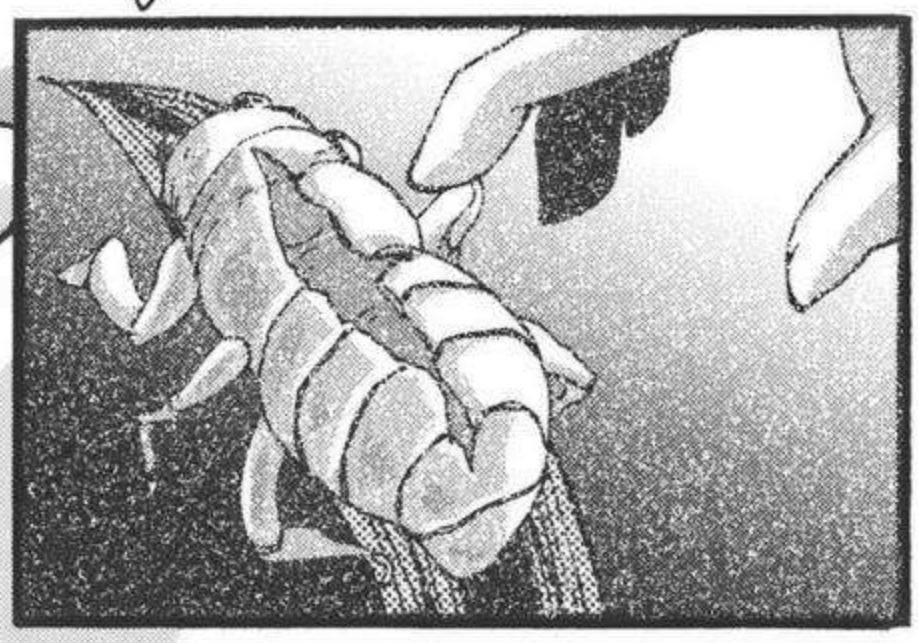
ゆゆこさまぁ

私の体には…

本当は
何もないのに
空っぽなのに

幼子が
蝉の抜け殻を
弄ぶ様に…

抜け殻なのよ…



だから…
私は…いつも…

は

ん あ…

あ…

満たされたいのよ

結界の様子を
見てきます

行って
参ります

随分と薄い所もあって
幽霊達も落ち着かない
様子で

行ってらっしゃい
気をつけてね

今日もまた
お客様が来るから
帰り際に庭の手入れも
忘れずにね

はい

変化に乏しい
冥界にも
春が来るのかしら

何の事かしら
お酒の勢いは
怖いのかしらね？

そうやって
いつもあなたは
とぼけてばかり

煙に巻くのが
得意なのは
お互い様でしょ

そうね
いい関係だわ

……

その問いは無意味よ
幽々子
あなたらしくもない

そうね
わかっているわ

今を生きてる
それが私だもの

あの子たち
いい子ね

妖夢の友人に
なってくれると
いいのだけれど

……妖忌も今の様な
幻想郷だったら
ずっと私の側に
いてくれた？

ドサッ

やっぱり巫女が
入ってきた所は
随分と弱い

ふう

こらこらッ
勝手に
行かない！

体で繋がっても
何も変わらなかった

あたたかい…
でも、

残ったのは
前と同じ苦しみ

幽々子さまは永遠
私など
本当にひとつに
なれないのに

私はこれからどうすればいいの？
こんな狭い世界に二人きりで

お悩みのようね

これは紫様
お早いおいでで

そういえば
もう春ですものね

まあ
人を蛇か蛙の様に

いえいえ
決してそのような
つもりは

ズーン
ズーン
まあいいわ
それより
ちょっと失礼
？
ビクッ
あっ
何なさるんですか！
ぽっ
こうでもしないと
貴方は勝手に向こうへ
行こうとは
しないでしょう？
なんて事を！
早く行かないと見失うわ
折角だから外の世界を
見ていらっしゃい

確かに
そうですが

何もここまで
しなくてもッ！

ドン

?

?

一見不可解だけども
冥界が
安定し続けるには…

別に私は
そんなつもり
ではないわ

そのような事
ばかりしている
おせっかい妖怪という
二つ名がつきますよ

あの子の成長は
必要不可欠なのよ

ああ人はそれを
おせっかいと言うのです

私やあの方を
拾ったのだって
世話焼きで…

さっ

ポキ

いーつー

かーらー

ポキ

お前は
そんな口をきける
身分になったの
かしら？

……

私は本当の事を
言ったまでです～

あっあっ
痛いです～
紫さまぁ～

本当は私が一番寂しがり屋だって

うわーん

わかってるわよ
そんな事…

こんにちは、江口と申します。この本は、幽々子は西行さんの娘じゃなくて、実は西行さんの××だったという妄想から出発した本ですが、消化不良で何故か紫オチとなりました。あれ～？みょんゆゆのねちょ百合具合とか、妖夢の成長の余地とか、幽々子が自分の存在に不安を抱いてひたすら無抵抗に全てを飲み込んでいくとか、紫のエゴとか色々ぶち込んだら着地失敗した模様です。これに更に幽々子紫妖忌の三角関係ねちょを加える予定を実行していたら更に収拾がつかなくなっていた予感。妖夢幽々子紫の三角関係も今回激しく萌える事に気がつきました。同性同士の友情と愛情がもつれたり勘違いしたりする三角関係が大好物です。ひとまず妖夢と私の余裕の無さを、魔法のおっぱいを持つ幽々子さまに「余裕が無いのね」って言われる事が出来たので良しとしよう。

花の下にて

発行日：2010年5月4日
発行　：ジッパリスト
http://zipper.client.jp/
breastripper@mail.goo.ne.jp
印刷　：くりえい社

*この本は上海アリス幻楽団様制作の東方projectを元にした二次創作同人誌です。

20100504
ジッパリスト

20100504
ジッパリスト

18